



今、ボランティアセンター担当者にとって大切なコーディネート力。企業との連携、福祉教育の推進、そして災害ボランティアなど、地域の課題に協働で取り組むため、コーディネートが重要になっています。ボランティアセンター担当者が押さえるべきコーディネートのポイントを連載で紹介いたします。

NPO法人 日本ボランティアコーディネーター協会
事務局長

後藤 麻理子 さん

2005年4月から、日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)専従事務局として、市民社会を支えるボランティアコーディネーターのネットワークづくりをめざし、人材養成や調査研究、啓発活動を進めている。東京都社協東京ボランティアセンター(当時)勤務時には、市民からのボランティア相談や地区ボランティア活動・企業の社会貢献活動などを推進。東京都北区ボランティアセンター出向時には、地域福祉活動計画策定にも参加。

第1回 今あらためて、社協ボラセンの役割・存在意義を考えると

はじめに

4月。人や仕事や組織にも変化が訪れる季節ですね。あなたの職場ではどんな新しい出会いや出来事が始まっているのでしょうか？ このコーナーも今回が連載の始まり。“コーディネート”というテーマをさまざまな視点から、立場から、分野から、学んでいこうという企画です。

『ボランティア情報』の読者の多くは「社会福祉協議会(以下、社協)」に所属する職員の皆さんと伺っています。とくにこのページを読んでいただきたいのは、業務で人や組織のコーディネートをやる場面のあるスタッフ。〇〇コーディネーターと名乗っている方はもちろんのこと、職名にかかわらず“コーディネートの力”を必要としているあなたに向けてのコーナーです。

初回は、ここ数年、社協のボランティアセンター(以下、ボラセンという)の職員研修や個別に話を聞く機会などで寄せられる課題や悩みをもとに、毎回のテーマに通じる問題意識を共有しておきましょう。

その1 社協のなかでボラセンの位置づけが揺らいでいる

社協という組織においてボランティアセンターは以前から、「フロントとしての役割」をもち、「パイロット的な仕事ができる」ところ、という見方がされていました。まさにボランティアの先駆性・開拓性・創造性に相通する魅力的な拠点。しかし、実際には「ボランティアを集める」「ボランティアグループのお世話をする」ことに時間をとられ、何のためにコーディネートするのか、なぜボランティアコーディネーターが必要なのか、という根源的な投げかけをする人たちが少なくありません。昨今では、ボランティアセンター以外の部署でアウトリーチ(ニーズチャッチするために積極的に地域に向いて働きかける)的な動きをする事業やその役割を担うスタッフが増えて

きたことから、改めてボラセンの役割や存在意義が問われています。

その2 地域におけるボランティア活動推進が社協の専売特許ではなくなっている

特定非営利活動促進法(1998年)が施行されて以降、NPO・市民活動支援センター(公設民営が多い)をはじめとする中間支援的な役割を果たす組織が設置されたことに加え、センターという箱物を持たずに間接支援の役割を担うNPOも増えました。

ボランティアといえば福祉、ボラセンといえば社協という時代は、ずっと昔の話です。都市部では複数の中間支援センターが存在し、活動者側から見れば選択肢が広がりました。では、社協ボラセンは何をやるどころなのか。協働よりもむしろ競合する状況のなかで「社協らしさ」「社協ならではの」押し出しが求められています。

その3 人手、担い手としてのボランティアへの期待が膨らんでいる

良くも悪くも行政の関与の強い社協では、その時々首長の意向や行政の担当部署、あるいは上?からの指示に戸惑う声も少なくありません。少子高齢化がますます進むなか、社会保障にかけられる財源は厳しさを増しています。行政からのボランティア(住民)への期待も膨らむ状況で、「あれもボランティア、これもボランティア。いったいボランティアって何なのか」、「ボランティア活用、動員、派遣と、活動の主体はだれなのか」と、自発性がパワーの源であるボランティアの価値が土台から崩れてきているのではという指摘もあります。

とはいえ、何もしなければ私たちの暮らし、地域、社会の持続、継続が難しい時代。その意味では、市民の社会参加意欲を高め、自発性を大切にするコーディネートのあり方・やり方、多様化、多文化化する地域の変貌に応える

コーディネートの方向性をこのコーナーを通して考えていきたいと思います。

(追記)

現在、新型コロナウイルスの感染が拡大しています。原稿を提出した翌週には、緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付などが始まり、今社協はまさに“オール社協”“ワンチーム”でのぞんでいることでしょう。このような状況下で「ボラセン」を切り取って考えることに違和感があるかもしれませんが、ボラセンを考えることが社協の未来を考えることにもつながると信じ、コーナーを構成していきます。



4月号から新たに始まったこのコーナー、今後1年かけて皆さんにコーディネートのポイントをご紹介します予定です。どうぞご期待ください。

次回5月号では、このテーマの前提として、社会福祉協議会のボランティアセンターの歴史的な変化を概観しておきたいと思います。

なお、本コーナーへのご意見・ご質問をお待ちしています。全社協 全国ボランティア・市民活動振興センターまでEメールでお寄せください。

全社協 全国ボランティア・市民活動振興センター
vc00000@shakyo.or.jp

